

# 平成 27 年度松阪市環境パートナーシップ会議全体会

日時 平成 28 年 1 月 22 日(金) 午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分

---

場所 松阪市三雲地域振興局 2 階会議室

---

出席者

25 会員(出席 26 名)

市民 9 名

朴恵淑(会長)、天野雅仁、大小出勝次、坂下喜代一、鈴木博、瀧本玲子、谷口寿、林田淑、山本秀和

市民団体 6 団体

歩いて楽しい道づくり(ゾーン 30 計画)実行委員会、嬉野アイリス、松阪市自治会連合会、まなび～原発@松阪、みえ自然・文化財保護サークル、三雲アイリス

事業者 10 社

株式会社アンジェロ、株式会社田上材木店、セントラル硝子株式会社、東邦ガス株式会社、マックスバリュ中部株式会社、松阪飯南森林組合、松阪農業公園ベルファーム、松阪農業協同組合、三重金属工業株式会社、ヴァーレ・ジャパン株式会社

オブザーバー

三重県松阪地域防災総合事務所長(代理 環境室長天野亘康)

アドバイザー

三重大学地域戦略センター特任教授(西孝)

事務局 4 名

環境・エネルギー政策推進課長(武田裕樹)、環境エネルギー政策室長(山口博司)、環境エネルギー政策室主任(徳田剛士)、環境エネルギー政策室係員(世古貴彦)

傍聴者 0 名



---

## 事 項

1. 平成 27 年の活動報告及び平成 28 年の活動について
2. その他

## 議 事 内 容

司 会：議事に入る前に、松阪市環境生活部環境・エネルギー政策推進課長からご挨拶申し上げます。

課 長：本日はご出席いただきありがとうございます。通常は松阪市役所本庁舎で会議を行いますが、会場の都合上三雲地域振興局庁舎になりましたことご理解ください。この会場は以前町役場の議場だったところで、重厚とした雰囲気がありますが、活発な議論をお願いします。環境パートナーシップ会議は協働の下に進んでおり、緑のカーテン、環境フェアを中心とした活動を行っています。緑のカーテンは夏の風物詩で、市内で多くみられるまでに成長しました。環境フェアにおいても、事業者の協力のもとで開催しています。今年度は 1 個人、2 団体、1 事業者が新たに加入していただき、会議の輪が広がっています。ここで行政の施策の紹介をさせていただきます。松阪市では平成 25 年にまちをきれいにする条例を制定しました。毎月 17 日に清掃活動を行っており、その活動を広げていこうということで、9 事業所にも主旨に賛同していただき、事業所周辺の清掃活動をしていただいているところです。松阪市では 11 日は交通安全の日ですが、17 日は美化の日にしていきたいと思っています。松阪駅周辺で

は路上喫煙禁止区域を設けたので、周知徹底に努めていきます。サミット 100 日前ということで、2 月 17 日に一斉清掃を行いたいと考えており、そちらのご協力もお願いします。今日は、環境パートナーシップ会議が市の中で大きな位置づけになるよう、活発な議論をお願いします。

司 会：本日は 48 会員に対し、25 会員が出席、22 会員から委任状が提出されました。過半数の出席があるとみなされるので、本会は成立しています。朴会長からご挨拶をお願いします。

会 長：今年は申年です。申は賢くやっかいな扱いもされますが、人間と自然とのバランスがとれていたらよいです。私たちの活動の広がりについて、9 月に行われた環境フェアを 6 月に行うのかという議論があります。伊勢志摩サミットがあるなかで私たちの力を見せる場も必要です。環境フェアを複数回開催しても良く、多くの方が環境パートナーシップ会議をわかってもらえる場を設け、そのような活動を通して輪が広がっていけば良いです。

司 会：それでは進行を会長に一任させていただきます。

会 長：みなさんから忌憚のない意見をいただきたい。まず平成 27 年度の活動の報告を、その後平成 28 年度の活動予定について、説明を求めます。

#### 1. 平成 27 年の活動報告及び平成 28 年の活動について

事務局：平成 27 年度の活動について報告。

会 長：平成 27 年度の結果について、みなさんのおかげでこのような取組みができた。何かコメントや補足は？

なし

会 長：緑のカーテンコンテストの副賞など、事業者の協力が得られてこれだけの取組みができるのは松阪モデル。さらなる発展のために平成 28 年度はどのような取組みを行うか、事務局から説明を。

事務局：平成 28 年度の活動予定について説明。

会 長：みなさんに意見を聞く前に、私から提案がある。今年から急に変わるのではなく、徐々に変えていったらどうか。平成 27 年度はしっかりした成果が上がっているのに、平成 28 年からすぐに変えるというのはいかがか。平成 28 年度は暫定的、モデル的にやっていきたい。再来年度にしっかりやってはどうか。緑のカーテンは CO2 何トン削減と換算しなくても、誰もが体で感じる。幼稚園、小学校で子どもがいのちの重みを考えながら植物を育てていく。環境フェア 6 月という時期について、来場者数で

4000人集めるのは非常に大変。9月を継続しつつ、6月もやるのでパートナーシップ会議のみなさんの力を貸してくださいという考えではどうか。

副会長:会長だけでなく、他の役員にも会議に臨む前にこのような形で進めたいという話があってよかったのではないか。

事務局:来年度の方向は、プロジェクト会議で協議をしながら進めてきた。

会長:どういった根拠でできるといえるのか。プロジェクト会議で検討を進めてきても、決定事項を出されたら議論できない。

会員:事務局から出されたのは提案書ではないか。

会長:確かに提案書であるが、緑のカーテンコンテストをやめるにもやめ方がある。

会員:提案していただいた案もよいと思う。緑のカーテンの取組みが市民に根付いていることは確かである。しかし、コンテストの応募までふみきれない。どうすればより多くの方が応募できるかを考えてほしい。財源については収益金がなくなるからやめるのではない。多くの方が参加したいと考えている。6月に環境フェアをするのは重要だと思うので、プレ環境フェアとして松阪の環境を広げるための取組みとしてはどうか。正会員だけでなくサブ会員をつくってはどうか。いきなり変えるのは問題がある。商品なども工夫してより多くの方が参加したいと考えるように。

会員:緑のカーテンの取組みについて収益金が減少しているという現状があるなか、収益金が減っているからコンテストをやめて緑のカーテンの取組みを続けるのは緑のカーテン事業の縮小になる。財源を他に求める手段はないのか。財源がないから消滅してもよいという感じを受ける。簡単に諦めている印象を受ける。省エネコンテストは別でやれば良い。省エネコンテストをどのように行うのか非常に曖昧である。

事務局:提案が不十分でお詫びする。緑のカーテンについて新たな財源について考えられる手段が見当たらない。緑のカーテンの取組みは市が配布している分だけではできない。今回この場でこういった方向がよいのかの議論をいただきたい。省エネコンテストについて、中部電力から送られてくる検針票に前年度比が記されているので、その前年比との比較により削減率を競う。

会長:省エネコンテストは軌道に乗るまで3年かかる。CO2を1%減らすというのは非常に大変な話で、どれだけの人が取り組めば1%減るか考えてほしい。

会 員：緑のカーテンの取組みは今のやり方では限界。行政職員 3～4 名でやっているが、提案をしていくことは非常に大事なので、行政でしっかり考えてほしい。市は困っている団体のコーディネートをしてほしい。新しくするという節電の取組みについて、どのように行うかわかりにくい。中部電力に協力してもらい企画を考えてはどうか。

会 長：緑のカーテンコンテストは子どもたちがそういった取組みに参加して大きくなってからも取り組みたいと思えるようにやっている。

事務局：あくまでも事務局からの提案になる。緑のカーテンの取組みは非常に大事な取組みであるというの理解しているところであるが、今後の方向性について今回の場で議論をお願いしたい。

会 員：レジ袋有料化について最初から関わらせてもらっている。収益金を何に使うかというのは当初から議論があった。

事務局：レジ袋収益金では主に緑のカーテンに充てるということでやってきた。昨年度に関しては環境関連事業として電気自動車の購入に充てた。現状としては収益金は 80 万程度だが、松阪市に配分される額は 50 万弱である。

会 員：収益金が今後減っていくという話が環境パートナーシップ会議で出ていない。それを会議で揉んだ上でやるべきではないか。事務局だけで考えて「無理だ」ではなく、会議の場でみんなに考えてもらうということかどうか。

会 員：レジ袋有料化の目的は何かというのは、意識啓発のため。レジ袋有料化収益金がないからやらないと言われると、買わなければならないのかと思ってしまう。

会 員：課題の書き方が悪いのではないかと。良く見れば取組みが定着してきたということだが、悪く見れば我々の活動が不十分ということ。松阪市民がすべて緑のカーテンに取り組みれば取組みは必要ない。H28 年度は緑のカーテンの取組みを継続して、どのように取り組んでいくか考える時期ではないか。

会 員：緑のカーテンの取組みは最初から携わってきた。マンネリ化という言葉がふさわしいかという話があるが、楽しみにしている方もいる。お金をかけずにできる取組みをみんなで考えていく。今年からやめるのではなく規模の縮小でどうか。

事務局：今までの流れがあるなかで変化を求めていきたい。環境パートナーシップ会議は市が主導ではなく、協働の下で進めていくものである。収益金が減っているなかでどのように進めていくかをみなさ

んで考えるべき。これまでの検証をしつつ新たな取組みに向かってチャレンジしていく議論の1年間にしたい。みなさんが環境パートナーシップ会議に入ってよかったなと思うような組織にしていきたい。

会長：平成28年度は緑のカーテンプロジェクトを継続し、省エネ活動プロジェクトを検討する。環境フェアも継続する。6月開催に関しては反対がない。環境パートナーシップ会議で行うから来てねというアピールの場をしっかりと設けること。9月に2回目をやっても問題ないが、6月はポスト伊勢志摩サミットとして会議のPRの場を設けてはどうか。9月は通常開催でよい。6月と9月に2回開催する方向性で具体的にはプロジェクトで考えていく。レジ袋収益金が減っていくのはあたりまえであり、例えば高校などに種から育ててもらっても良い。

会員：緑のカーテンプロジェクトに最初から関わってきた。松阪市は最初から苗配布を5月にしていた。これはレジ袋のお金がないときから実施していた。レジ袋収益金があるから配っているというものではない。緑のカーテンコンテストも市の担当者に押しつけてしまっている感があるのは申し訳ない。緑のカーテンコンテストはまだ5回目これから発展させていくところでもある。

会員：環境フェアのプロジェクトで携わっている。ベルファームでのイベントではなくても講師を招いた勉強会でも構わない。企業がたくさん参加していただいてありがたいが、環境フェアにどれだけ環境パートナーシップ会議会員が来てくれたのか。地域に広げていくためにも地域振興局の担当も巻き込んで活動を。こういった会議が年1回あるだけでは難しい面もあるだろう。

会長：これから協力体制でやっていかなければならない。あらゆることを考える良い機会だったのではないか。緑のカーテンと省エネどっちも力を入れて共倒れでは困るので上手にやってほしい。やり方を工夫してやってほしい。

会員：やり方を変えるのは大変だと思う、アサガオとゴーヤ以外でもカーテンになるものもある。苗を配るのではなく種を配って種から育てるという考え方もあってよいと思う。

事務局：緑のカーテンの育て方については、毎年講座も開催しているのでそういったところも使ってほしい。

会長：事業者から何かあれば意見を聞きたい。

会員：会長の意見でもあったが、根付いたものを広げていくのは大事。課題があるならそれを明らかにしてみんなで考えていきたい。一般家庭のなかで省エネを進めていくことは大事であり、小さい子どもや学生からアイデアが出ることもあり、それが教育にもつながってくるので、学生から自由研究などでアイデアをもらってほしいのではないかな。

会 員：会社で子どもに対する教育を行っているところもある。6月で行うなら期間がないので、啓発に重点を置いてはよいのではないか。

会 長：行政は数値で表せられるものを好む傾向がある。地に足をつけてしっかり活動することが大切。

## 2. その他

事務局：事務的な連絡をさせていただく。会議の啓発のためシールとマグネットをお配りさせていただいた。同封のアンケートを3か月くらいをめどに回答してほしい。

会 長：マグネットの予算はどこから出ているのか。

事務局：市の予算から。新規会員の方にはお配りしていないので希望される方は事務局まで連絡を。改めてプロジェクトメンバー募集を行うので回答をお願いしたい。最後に、三重県で地球温暖化防止活動推進員を募集しているので、興味ある方は用紙をお持ち帰りいただきたい。

会 長：CO<sub>2</sub>を民生部門で40%減らさないといけない。各地域に温暖化防止活動センターがあり、推進員がいる。三重県に推進員87名いるが、この方々がいないと成り立たない。知事から委嘱を行う。任期はこれまで3年だったが、今後5年になる。ぜひ参加をお願いしたい。以上で終了します。